四つの特質

この「四つの必要なもの」をきちんと理解できていないことが、多くの深刻な結果を招いてきた原因です。その四つとは、**マイトリー、カルナ、ムディタ、ウペークシャー**です。これらは、誰にとっても必要な四つの重要な特質です。これらの特質の特性は、どれも正しく理解されておらず、説明もされていませんでした。

たとえば、**マイトリー**（友情）は、単に仲が良いことと見なされています。友情とは何か？ 自分の友人となるべきなのは誰か？ 人はどうすれば友人らしくあることができるのか？――これらの側面を理解しなければなりません。友情は、誰とでも育てるべきではありません。友情は、年齢、地位、文化などが自分と同じ相手とのみ育てるべきです。自分より下の人、あるいは自分より上の人との友情は避けるようにしなさい。これが友情というものの本当の意味です。もし自分より地位などが上の人と友人になろうとすれば、相手はあなたの上に立った態度を取ろうとするでしょう。あなたが相手に威張られるのが嫌になったら、その友情は壊れます。もし自分より下の人と友情を育てようとすれば、あなたは相手に対して親分風を吹かせようとするかもしれません。相手がそれに黙って従わなければ、その友情は壊れます。ですから、友情は、年齢や富や地位などが等しい者同士の間でのみ存続するものなのです。

カルナ（恩情、慈悲）：　恩情は、年齢、富、健康、地位、教養といったようなものが、自分よりも低い相手に対して示されるべきものです。そうして初めて、慈悲は意味のあるもの、価値のあるものとなるのです。恩情はそういった場合に正当なものとなります。

ムディタ（好意を持つこと）：　この特質は、自分よりも良い状態にある人への態度と関係するものです。そのような人を見たときには、嬉しく思うべきです。その人は自分よりも裕福だったり、自分よりも良い地位に就いていたり、良い物を持っているように見えるかもしれません。そうした様子を見て、あなたは嬉しく思うべきです。自分よりも高い地位を持っている人や、高い点数を取った人を見て、喜ばしく思うべきです。ムディタは、他人の幸運に対して妬みを持たずに嬉しく思うことを意味しています。

ウペークシャー：　アペークシャー（好むこと）とウペークシャー（好まないこと、関心を持たないこと）という二つの言葉があります。悪い行いをしている人や、悪い考えを抱いている人を好むべきではありません。そのような人とは距離を置くようにしなさい。悪い思いでいっぱいな人、悪口を言う人、悪い行いをしている人とは離れていなさい。これがウペークシャーです。

１９８９年6月 20 日
プラシャーンティ・マンディールで行われたサイ大学の学生に向けての御講話より
Sathya Sai Speaks Vol22 C13